

令和4年度 学校評価 自己評価書（後期）

1 学校の重点目標

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ○ 子ども主体の活気のある学校 | ○ 規律を重んじ心豊かな子供を育てる学校 |
| ○ 確かな学力を身に着けさせる学校 | ○ 学習環境が整備された学校整備 |
| ○ 地域と連携し、共に成長する学校 | ○ 組織力を生かし校務を遂行する学校 |

2 課題と改善策

	評価項目	職員	評価結果と改善方策
重点項目	1 生涯にわたって生きて働く学力の育成	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 大きな事故や怪我なく、感染症対策を取りつつ学校生活を送ることができた。 「頑張る5」に取り組み、今後の課題（あたたかい言葉とあいさつ）が明確となった。 コロナ禍を踏まえた地域団体との交流、体験活動を行うことができた。
	2 豊かな心、自信と自己肯定感の醸成	2.9	
	3 たくましい体、安全・安心な開かれた学校づくり	3.3	
生徒指導	1 開発的生徒指導の推進	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 開発的生徒指導の共通実践を行うことができた。 全校体制で特別支援教育を推進し、人権教育に関する研修を通して人権感覚を高めることができた。 毎月のアンケートの実施を通じて、いじめ問題の積極的認知に努め、事案に対し丁寧に対応することができた。
	2 特別支援教育や人権教育の視点を取り入れた生徒指導の推進	3.1	
	3 いじめ問題の適切な把握と解消に向けた取組、いじめを起こさない先手指導の推進	3.4	
学力向上	1 指導内容の明確化	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 身につけるべき力を明確にした授業、ゴールを明確にした授業の意識化を図ることができた。 習熟の時間の確保や学力に応じた教材・学習形態の工夫、個別指導に取り組んだが、学力の二極化が見られる。 発達段階に応じた家庭学習に取り組ませることができた。今後はデジタルドリルの活用を進める。
	2 取り立て指導の推進と充実	2.7	
	3 家庭学習の充実	3.0	
心の教育	1 特別の教科「道徳」と読書活動の充実	3.1	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善と指導力の向上を図ることができた。 「あたたかい言葉」かけがまだ十分とは言えないので、今後も取組の充実を目指していく。
	2 人権教育の充実	3.1	
体力向上	1 実態把握と教科体育の充実	2.6	<ul style="list-style-type: none"> 体力向上の課題を踏まえた運動量の確保と低学年時からの体づくりが今後の課題である。 基本的感染症対策を継続して行うことができた。 「ヒヤリハット」の情報共有と検診等の結果を活用した治療の促進をすることができた。
	2 感染症対策の共通理解と実践	3.3	
	3 けがや病気の予防と治療の促進	3.1	
教育環境	1 校内設営の充実	2.9	<ul style="list-style-type: none"> 目的に沿った動的設営を実施することができた。 空き教室の環境整備を行うことができた。教員同行による掃除の徹底に今後力を入れていきたい サービス違反0件、「1 Action」の確実な実践と「1 Try」の推進に取り組むことができた。
	2 校内美化の推進	2.9	
	3 サービス規律の厳正確保と業務改善の推進	3.5	

3 次学期（年度）に向けての取組

- 基本的な感染症対策に取り組み、教員の安全を確保しつつ、学校教育目標の具現化に向けた取組を行う。
- 学力向上に向け、個に応じた学習機会の保障や身につけるべき力を明確にした授業の実践と評価、適切なICT活用を図る。また、習熟や発展に取り組む時間の確保と充実を図っていく。
- 基本的な生活習慣（家庭学習・インターネット利用を含む）の確立を目指し、保護者との連携を図りながら保護者・児童の実践力を高める活動に取り組む。